

人形浄瑠璃

文楽

～解説・字幕付き～

「一谷嫩軍記」
「曾根崎心中」

繊細な表現で観るものを圧倒する

世界最高峰の人形劇

2022

3.13 (日)

出演 【太夫】竹本千歳太夫
【三味線】豊澤富助
【人形】吉田和生(人間国宝)

©青木信二

昼の部

12:30 開場 13:00 開演

約 130 分 (途中休憩はございません)

いちのたにふたばぐんき

「一谷嫩軍記」

夜の部

16:30 開場 17:00 開演

約 100 分 (途中休憩はございません)

そねざきしんじゅう

「曾根崎心中」

チケット発売

メンバーズ

11/20 (土)

一般

11/27 (土)

所沢市民文化センターミュージズ マーキーホール

一般：全席指定 ¥4,000

昼夜セット ¥7,000

メンバーズ特割：全席指定 ¥3,500

昼夜セット ¥6,000

チケットのお求めは・・・

ミュージズチケットカウンター 04-2998-7777

インターネット予約 [所沢ミュージズ](#) 検索



芸術文化振興基金助成事業



ミュージズメンバーズ倶楽部

会員募集中!

主催公演の優先予約&チケット10%割引

年会費2,000円 入会無料

〈託児サービス (有料・要予約)〉

イベント託児・マザーズ

0120-788-222 (月～金 10:00～17:00)

託児料……0・1歳 2,000円/2歳以上 1,000円

主催：公益財団法人所沢市文化振興事業団

公益財団法人文楽協会

後援：文化庁

助成：芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



いちのたにふたばぐんき くまがいざくら だん くまがいじんや だん 昼の部 「一谷嫩軍記 熊谷桜の段・熊谷陣屋の段」

一ノ谷での源平の合戦。「一枝を伐らば一指を剪るべし」と記された制札を、源義経から渡され、若木の桜を守れと命じられた熊谷直実。一騎討ちとなった、我が子と同年輩の平敦盛一実は、後白河院と、熊谷にとって命の恩人である藤の局との間の子を討ち取りました。

初陣の息子が心配で、武蔵国から旅をして来た妻相模。追手を逃れ、偶然にも熊谷の陣屋へ駆け込み、我が子の仇と迫る藤の局。そんな二人に熊谷が語ったのは、子を失った両親の嘆きを思い、組み敷いた敦盛を助けようとしながらも討たざるを得なかった合戦の様子と、敦盛が最期まで母の身を案じていたことでした。

いよいよ首実検。熊谷は、制札に従い敦盛を討ったとして、我が子の首を義経の前に。制札の真意を、「一子を切らば一子を切るべし」、院の子である敦盛を切るなら、自身の子を切れと判断したことは、正しかったのか？あるいは間違いか？熊谷の間に、義経は首を敦盛と認めました。

敦盛は熊谷に匿われ無事。思いもよらない息子の死に慟哭する相模。大切な子を失い、もはや俗世に何の望みもない熊谷は出家を志し、その場で髻を切って法然のもとへと向かいます。

宝暦元年（1751）、豊竹座で初演された五段の時代物で、今回上演される三段目までを執筆して並木宗輔が亡くなり、残りの段を他の作者たちが補いました。

熊谷が一ノ谷（神戸市須磨区）の合戦で敦盛を討った話は『平家物語』の中でも有名で、子に死なれる父親の悲しみを思いやり、我が子のような若武者を討たねばならず苦しむ姿が描かれています。そこに、実はそれは我が子であったというひねりを加えた本作では、熊谷の内面により深い苦悩と悲しみが秘められ、「16年もひと昔。夢であったなあ」と、息子への思いが、心の奥から絞り出されるように語られるのが、印象的。悲劇を豪快に描く時代物の代表的演目です。



そねざきしんじゅう いくたましやぜん だん てんまや てんじんのもり だん 夜の部 「曽根崎心中 生玉社前の段・天満屋の段・天神森の段」



離れては生きていられない二人一醬油屋の手代徳兵衛と天満屋の遊女お初。

徳兵衛は、店の主人からもちかけられた縁談話を断固拒否。ついに破談となり、欲深い継母が知らぬ間に受け取っていた持参金を主人に返すことに。期限は明日。金はすでに継母から取り戻して来てありましたが、激怒した主人に大坂追放を言い渡された身。お初と会えなくなる…。嘆く徳兵衛を力づけ、金を一刻も早く主人に返して怒りを和らげるよう、勧めるお初。

ところが、その大切な金を、徳兵衛は油屋九平次に頼み込まれて貸してやっており、この日になって騙し取られたことが判明。それどころか、証文を偽造して九平次から金をゆすり取ろうとした犯罪者にしたてあげられてしまいました。

身の潔白を証明するには死ぬよりほかない…。天満屋へ姿を見せた徳兵衛から覚悟を聞かされたお初は、一緒に死ぬことを決意。深夜、徳兵衛と手を、曾根崎の天神の森へ。

元禄16年（1703）、竹本座で初演された近松門左衛門の世話物第1作。実際にあった曾根崎（大阪市北区）での心中事件のわずか一月後に上演、大好評を博しました。同時代の題材を扱うことのない浄瑠璃にとって画期的な作品です。その後は上演が絶え、昭和30年（1955）に、野澤松之輔の脚色、作曲により、四ツ橋文楽座で復活されました。

店の縁の下に身を潜める徳兵衛が、その上に腰かけたお初の足を手に取り、言葉を交わしあうこともなく、人知れず心中の意を確かめあう「天満屋」。「この世の名残、夜も名残…」、有名な道行で始まり、原作通りではないものの、心中する二人の思いが迫り来る、悲しくも美しい「天神森」。原作で近松がその死を「恋の手本」と讃えた二人の強い結びつきが胸を打つ、海外公演でも絶賛される人気演目です。

*配役表はミュージズホームページにて！



*未就学児の入場はご遠慮ください。

*字幕表示がございます。席によっては字幕が見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。

*新型コロナウイルスの影響や出演者の急病、その他やむを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承ください。

*開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。

*駐車場は混雑いたします。公共の交通機関をご利用ください。

チケットのお求めは ミューズチケットカウンター

TEL.04-2998-7777

チケット発売／メンバーズ：11/20[土] 一般：11/27[土]

インターネット予約 24時間購入できます！

お問い合わせ

所沢市民文化センター ミューズ

〒359-0042 所沢市並木1-9-1
TEL.04-2998-6500

「航空公園駅」東口より徒歩10分・バス3分

西武新宿線・航空公園駅まで

■「池袋駅」より約30分（所沢駅乗り換え）

■「本川越駅」より約20分

■「高田馬場駅」より約35分

■「西武新宿線」より約40分

■「JR国分寺駅」より約20分（東村山駅乗り換え）

